

「八戸市文化のまちづくりビジョン（案）」へのご意見と市の考え方について

- 1 意見募集の実施期間 平成27年8月27日（木）～平成27年9月25日（金）
- 2 寄せられた意見数 9件（提出者 2名）
- 3 意見の内容と市の考え方

いただいたご意見を整理し、概要をまとめております。

No.	意見内容（概要）	市の考え方
1	<p>ビジョン全体について</p> <p>当たり前のことを当たり前に書いているので、厳しく言えば独創性に乏しい内容と思えました。</p> <p>もっと「八戸市でなければならない」という独創性、ブランド、個性を謳わないと弱いと思います。芸術、文化というものは、今の時代のように成熟した社会ではどこでも必需です。モノよりも精神的な充足を求めるからです。読んで感動のあるビジョンを作成してくださるよう望んでやみません。</p>	<p>国宝3点をはじめ、八戸三社大祭、八戸えんぶり、縄文時代の出土品などの有形・無形の文化財、博物館や埋蔵文化財センター是川縄文館等の文化施設、多文化都市八戸の取組み、市民による多種多様な文化芸術活動、アートのまちづくり、八戸ポータルミュージアム「はっち」といった、当市の個性が最大限に発揮されるよう、当ビジョンに基づき、文化芸術の力を活かしたまちづくりを進めて参ります。</p>
2	<p>「1 ビジョン策定の趣旨」について（P3）</p> <p>どこの都市でも同じことで、言わんとしていることがぼやけています。一番根本的なこと、なぜ八戸でなければならないか、を強く出さなければならないと思います。また、もっと文章を簡素化して、誰にでもわかりやすい文章にした方がいいのでは、と思います。全体的に文章が長いのです。短く、誰にでも伝わりやすくする。これは多様性、ダイバーシティの基本だと思います。</p>	<p>国宝3点をはじめ、八戸三社大祭、八戸えんぶり、縄文時代の出土品などの有形・無形の文化財、博物館や埋蔵文化財センター是川縄文館等の文化施設、多文化都市八戸の取組み、市民による多種多様な文化芸術活動、アートのまちづくり、八戸ポータルミュージアム「はっち」といった、当市の個性が最大限に発揮されるよう、当ビジョンに基づき、文化芸術の力を活かしたまちづくりを進めて参ります。</p> <p>また、文章につきましては、分かりやすさを第一に、丁寧に説明して参りたいと考えております。</p>

（次ページへ続く）

No.	意見内容（概要）	市の考え方
3	<p>「2 あらゆる人が文化芸術に触れることのできる仕組みづくり」について（P 6）</p> <p>タイトルはいいのですが、中身の文章が配慮に欠けていると思います。誰もが文化芸術に広く親しみ、参加・創造するのはいいのですが、例が偏っています。「など」と記されてはいますが、当市で誰もが文化享受できないのは、出向いていけない以外の事情があります。全国で最低賃金が安い地方ですが、更にもっと収入が安い障害者の暮らしがあります。これが原因で、文化的な恩恵が普遍的に受けられないのです。その他の都市では、多くの所が美術館など無料で入場できます。</p> <p>福島県、山形県などと比べてもわかると思いますが、八戸市は収入がないか低い障害者が入場できるには「0」という数字、実に文化のまちとして恥ずかしい現実があります。障害があると、それによるストレスが大きいのしかかり、文化芸術の働きは精神上大きいものだと思われませんが、文化を享受しにくい現実を知っていただきたいと思います。</p>	<p>基本方針1の2では、一例として、文化施設に足を運ぶことが難しい方々のもとへ出向いた上での、鑑賞機会や体験型のプログラムの提供を挙げておりますが、後段で述べているとおり、個人を取り巻く社会的状況に関わらず、誰もが文化芸術に広く親しみ、参加・創造することができる仕組みを整えて参ります。</p> <p>なお、当市では、障害者手帳の提示により、文化施設を含めた市内公共施設の利用料及び入場料の割引制度を設けております。</p>
4	<p>「2 あらゆる人が文化芸術に触れることのできる仕組みづくり」について（P 6）</p> <p>多くのセミナー、講演などで、どれくらい聞こえにくくなった人に配慮がなされているのでしょうか。障害者の他、高齢社会において聞こえにくくなった人に配慮がありません。八戸市での公共の場でのDVDなども、字幕が配慮されているのでしょうか？今はIT社会ですので、字幕も自動で付けやすくなっています。</p>	<p>個人を取り巻く様々な状況を踏まえ、あらゆる障壁を取り除くことができるよう、誰もが文化芸術に広く親しみ、参加・創造することができる仕組みづくりを進めていく中で配慮いたします。</p>

(次ページへ続く)

No.	意見内容（概要）	市の考え方
5	<p>「2 あらゆる人が文化芸術に触れることのできる仕組みづくり」について（P 6）</p> <p>あらゆる人が文化芸術に触れることができる仕組みというのは、決して動けない人だけの問題ではないのです。動けない人でも、多くの都市では外に出ています。八戸市は少ないですね。寒いという他に外に出にくい要因があるのではないのでしょうか？静岡市のお祭りでは、ノーマライゼーションブースが毎年設置されています。手話通訳のブースもありました。このように誰もが普通に出向いていける環境が整備されてしかるべきです。出向いてもらえるのもいいのですが、出向いていける環境の方が嬉しいですね。</p>	<p>個人を取り巻く様々な状況を踏まえ、あらゆる障壁を取り除くことができるよう、誰もが文化芸術に広く親しみ、参加・創造することができる仕組みづくりを進めていく中で検討して参ります。</p>
6	<p>発信と取り組み方について（P 8、P 9）</p> <p>八戸市が遅れていると思うのは、このIT部分です。多くの場合、ユニバーサルなのは誰もがアクセスできるネットなのですが、八戸市はその部分の構築が遅れています。アクセシビリティの整備を進め、全国と言わず世界に八戸の魅力を発信するべきです。</p>	<p>国内のみならず、世界中の人が当市の文化芸術に関する情報を知ることができ、また国内、海外に当市の魅力を発信することができるよう、ホームページやSNS等の媒体を活用した環境整備に努めて参ります。</p>

（次ページへ続く）

No.	意見内容（概要）	市の考え方
7	<p>「3 基本方針」、「4 四つの視点」、「5 まとめ」について</p> <p>失礼ながら、どこの都市でも言っている内容に思われます。八戸市独自のものが感じられないのです。</p> <p>八戸市でなければならぬものはなんなのか！独自性のあるビジョンの策定が必要と思います。八戸市民が共感できる内容にしてほしいのです。</p> <p>それには、八戸市民から若い方々を含めたメンバーで市民と一体型の委員会を構成し、この『八戸市文化のまちづくりビジョン』が推進されることを切に希望いたします。</p>	<p>平成26年12月11日に開催した多文化都市八戸推進懇談会に提示したビジョン案をご覧いただいたものと推察します。</p> <p>その後、各方面からいただいたご意見を基に、当市の独自性を表現できるよう修正しております。</p> <p>また、策定後の推進体制につきましては、多くの市民の皆様のご意見を反映することができるものとなるよう、検討して参ります。</p>
8	<p>その他</p> <p>後発の八戸市が独自性を誇れるようなビジョンを持つには、どこより素晴らしいノーマライゼーションとIT分野の部分がヒントではないかと全国を見渡して思いました。誰をも排除しない文化のまちを目指していただきたく、よろしく願いいたします。</p>	<p>あらゆる人が文化芸術に触れることのできる仕組みづくりに尽力しながら、文化芸術の持つ力を活用した、魅力あるまちづくりを進めて参ります。</p>
9	<p>その他</p> <p>「アートのみち」、「写真のみち」などいくつかの名称を聞きますが、市の姿勢を統一して欲しいと思います。直接関わっているわけではない市民はよく分からず混乱してしまいます。</p>	<p>当市では、様々な分野において「〇〇のみち」を標榜し、施策を展開しておりますが、これは、多様な取組みを通じて、多角的にまちの活性化を進めていきたいとの考えによるものです。</p>